

2012 年度「教養特別講義 2」について

峰村 勝弘

「教養特別講義 2」は日本女子大学に入学した全学生が履修すべき必修科目として「教養特別講義 1」と並ぶ科目で、全学生の教養を高め、視野を広げ、卒業後に社会人として生きていくための力を与えることを目的とした重要な科目です。そもそも教養特別講義は本学の創立者成瀬校長の「実践倫理」を基としています。創立者が「実践倫理」でとりあげた内容は多岐にわたり、女子を「人として、婦人（女性）として、国民として教育する」建学精神が実践されました。そして「信念徹底」、「自発創生」、「共同奉仕」は創立者が晩年に述べた教育理念としての三綱領です。「教養特別講義 2」はこのような精神や理念を基盤として、2009 年度に、現代を生きる女性のキャリアを十分に伸ばすという視点をさらに強調した内容に再編されました。本年度もこれが継承されています。

2012 年度の講演者の選出は例年にならって、前年度の教養特別講義 2 委員会が行いました。講師候補者を、学生委員、現代女性キャリア研究所、教養特別講義 2 委員の推薦する講師候補者の中から選出・交渉しました。毎年、現代女性キャリア研究所からも多数の講師候補者を推薦していただき、候補者の幅が広がり感謝しております。今年度は学生委員からの候補者が多数講師に選出されています。例年のように、講師依頼交渉は難航しましたが、その結果、本年度も、医師、政治家、大学教員、芸術家、起業家、実業家など、学内外の様々な分野で活躍されている方々をお招きすることができました。学生のみなさんには、このような方々の講演を聴く機会を生かして多くを学んで欲しいと切に願っています。

日本は今年の 3 月 11 日東北地方太平洋沖地震による東日本大震災という大災害を受けました。とくに福島原子力発電所が爆発するという大事故を経験しました。私たちは、人的物的被害による大きな悲しみを抱えて生きていかなければならないことは無論、原子力というものをもつ本質的な危険性…事故の影響は、交通事故、飛行機事故などとくらべると、時間的にも空間的にも無限大…に正面から取り組み、人類としての生き方を根底から考えなおす時にあります。日本女子大学の卒業生は、教養特別講義 2 を通じて、女性としての強みを生かし、さらには、男女を超えた立場でも物事を見通す力をつけて、日本をこえて世界のリーダーとなって人類全体のために頑張ってもらいたいと思います。

(みねむら かつひろ 理学部数物科学科教授・教養特別講義 2 委員会委員長)